

令和5年第4回市議会定例会一般質問一覧表

1 日 時 令和5年12月6日(水) 午前9時30分
令和5年12月7日(木) 午前9時30分

2 質問者 (質問順)

- | | | |
|---------------|-----|--------------------------------|
| (1) 新緑水クラブ | 80分 | (1 秋葉みどり、2 坂本拓也、3 中村義幸、4、早川康司) |
| (2) 市友会 | 40分 | (5 江川祐之、6 工藤政明) |
| (3) 公明党 | 40分 | (7 蓑手純一、8 井上純一) |
| (4) 日本共産党議員団 | 40分 | (9 加藤典子、10 坂 ゆかり) |
| (5) 子どもたちに青い空 | 20分 | (11 村瀬進治) |

3 質問事項、要旨及び項目

質 問 者	1 秋 葉 みどり 議 員 (新緑水クラブ)		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 子育てするなら東海市の実現に向けて	1 本市は、都市宣言に掲げている「子育てと結婚を応援するまち東海市」にふさわしい「日本一子育てしやすいまち」を目指し、独自に第3子以降の保育料及び副食費の無償化の施策を進めてきた。そして近年、各地域の特色に合わせ第2子以降の保育料を無償化する自治体が増えてきている。子育て世代が安心して子どもを産み育てることができるような支援策について、本市の考えを問う	(1) 本市において現在、第3子以降の保育料及び副食費無償化の対象者数及び影響額はどのようか (2) 第3子以降の保育料無償化と同様に、すべての第2子保育料及び副食費無償化を実施した場合、その対象者数及び影響額はどのようか (3) 子育てするなら東海市の実現に向けて、本市において第2子保育料及び副食費無償化を進めるべきと考えるがどうか	
2 沖縄体験学習の成果と課題について	1 平成20年度より、中学2年生が本市の姉妹都市である沖縄市及び沖縄市周辺地域を訪問し、沖縄の自然や文化・歴史等に触れる中で、平和について学び生命や自然の大切さを体験するための貴重な体験学習が行われてきた。事業開始から16年目となった今、これまでの成果と課題について問う	(1) これまでの体験学習の成果はどのようか。また、生徒達からはどのような反応があったか (2) これまで問題となるような事例はあったか。また、現在課題となっていることはあるか (3) 本市の特徴である沖縄体験学習のさらなる充実に向けて、検討の必要があると考えるがどうか	

<p>3 市民サービス向上と窓口業務改善について</p>	<p>1 令和5年4月より、本市においておくやみ窓口が設置され、ご遺族に寄り添ったサービスが始まった。北海道北見市では、窓口の業務改善の取組が進められており「書かない窓口」が設置され、市民サービスの向上とともに職員の業務効率化が進められており、本市においても導入の方向で検討が進められている。本市において、今後の窓口の在り方について問う</p>	<p>(1) おくやみ窓口が設置されて以降、利用された件数はどのようなか。また、利用者からはどのような反応があるか (2) 窓口業務改善に向けて、これまでどのような取組を行ってきたか (3) 土日に窓口を開く等して市民サービスに努めている自治体の取組があるが、市民の利便性向上のためには、本市においてどのように取組むべきと考えるか (4) 北見市のような「書かない窓口」導入に向けて、どのような検討を進めてきたか。また、導入に向けて、今後の予定はどのようなか</p>	
<p>4 太田川駅東のムクドリ対策について</p>	<p>1 太田川駅東イベント広場では、ムクドリの大群が飛来することによる騒音やフン害が問題となってきた。そのような中、(株)まちづくり東海が試験的に行った携帯型のLED照明装置による鳥獣対策が効果的だったとの話を耳にした。太田川駅東イベント広場のムクドリ対策について、本市の考えを問う</p>	<p>(1) 今回の試験的対策以前に、どのような対策を行ってきたか。また、効果はどのようなか (2) 試験的に行った携帯型LED照明装置によるムクドリ対策について、課題となるようなことはあったか (3) 携帯型LED照明装置によるムクドリ対策を、今後継続して実施するべきと考えるがどうか</p>	
<p>5 ひとり暮らしの高齢者への支援について</p>	<p>1 少子高齢化に伴い、ひとり暮らしの高齢者が増え続けている。身寄りがない場合、入院や施設に入所する際の身元保証の代行や財産管理、死亡後の火葬や遺品処理等で支援を必要とする人も少なくない。ひとり暮らしの高齢者への支援について、本市の考えを問う</p>	<p>(1) ひとり暮らしの高齢者の状況について、どのように把握しているか。また、身寄りの有無についての把握はどのようなか (2) 現在どのような支援を行っているか。また、課題はなにか (3) 身寄りのない高齢者の死後の手続きについて、どのように対応しているか。また、これまで問題となるような事例はあったか (4) 身寄りのない高齢者の死後の尊厳確保に向けて、対策を進めるべきと考えるがどうか</p>	

質 問 者	2 坂 本 拓 也 議 員 (新緑水クラブ)		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 いきいきとした暮らしの応援について	1 本市では令和5年度より带状疱疹ワクチン接種の助成事業を開始しており、市の助成制度では、生ワクチン3,000円1回のみ、不活化ワクチン1回5,000円の2回接種までを助成しているものの、不活化ワクチンは1回接種につき実費で20,000円から30,000円が必要となるため、助成額を考えても未だ高価であることから、今後の助成額拡充について、市の考えを問う	(1) 令和5年度から50歳以上の方を対象とした带状疱疹ワクチン接種の助成事業が始まっているが、生ワクチン及び不活化ワクチンの現時点での助成状況はどのようなか (2) 带状疱疹の発症予防及び重症化予防のため、带状疱疹ワクチンの接種率を向上させることは重要であると考えているが、助成額を増額し、自己負担を軽減することで接種を進める必要があると考えているかどうか	
	2 補聴器を使用することで、認知症予防にも効果が期待され、生活の質の維持、フレイル予防にもつながると考えるが、補聴器の購入補助制度について、本市の考えを問う	(1) 高齢難聴者が補聴器を購入するための費用について、近隣市町における補助の実施状況はどのようなか (2) 高齢難聴者に対して、補聴器購入のための補助制度を実施することは、フレイル予防につながるとともに社会参画への支援につながると考えるかどうか	

	<p>3 住み慣れた本市で快適にいつまでも安心して生活してもらうために、在宅高齢者への訪問理美容サービスへの補助事業は効果的であると考え。年齢を重ねてもいつまでも身だしなみを整えたいという外出困難な在宅高齢者に寄り添う訪問理美容サービスへの補助について、本市の考えを問う</p>	<p>(1) 高齢者等への理美容サービス事業について、近隣市町における補助の実施状況はどのようなか (2) 在宅の寝たきり高齢者及び身体に障がいを抱え外出が困難な高齢者に対して、訪問理美容サービスへの補助を行うことは、大変有効な福祉サービスと考えるがどうか</p>	
--	---	---	--

<p>2 子どもの健全な成長について</p>	<p>1 学校現場の課題となっている、いじめの認知件数と不登校児童生徒数が、いずれも過去最多となっていることが、文部科学省が令和4年度に行った問題行動・不登校に関する調査で明らかになった。児童生徒のSOSサインに早く気づき、早期に支援することは大変重要であり、SOSサインに気付かず支援が遅れると、問題が深刻化し、子どもが深く傷つくだけでなく、回復にも時間がかかり、教員だけでなく保護者や支援者も疲弊することとなる。タブレット端末とAIを活用した、いじめ相談等のSOS相談フォームを開設することは、困難に直面した児童生徒に早期に寄り添うことにつながることから、子どもたちがのびのびと安心安全に育つために早期導入が非常に重要と考えるが、本市の考えについて問う</p>	<p>(1) 児童生徒本人からのいじめ相談等を受ける相談窓口の選択肢を増やすため、児童生徒が身近に使用している学習用タブレット端末内に「東海市いじめ相談SOSフォーム」を設置し、運用することは、児童生徒が日頃抱えている不安な気持ちに、教員がいち早く気が付くことに効果的であると考えがどうか</p> <p>(2) 児童生徒のタブレット端末内で、いじめ等の相談記録や児童生徒が授業や課外活動の振り返りで書き込んだコメント等をAIエンジンで解析し、いじめ等に起因する児童生徒の心の変化を早期に発見することは、困難に直面している児童生徒に対する早期の支援開始に大変有効であると考えが、本市の今後の方針はどうか</p>	
------------------------	--	--	--

<p>3 愛知・名古屋アジア競技大会について</p>	<p>1 アジア最大のスポーツの祭典であるアジア競技大会が、令和8年に愛知・名古屋の地で開催されるが、本市ではカバディの競技会場として仮決定している。本市におけるカバディ競技の開催は、カバディの町東海市という新しい魅力の創造とアジア各地から訪れるインバウンドへの東海市の魅力発信に大きなチャンスであると考え、アジア競技大会の開催に向けた、本市の取組について問う</p>	<p>(1) 本市においてカバディが開催される予定だが、これを起爆剤として、カバディの認知向上に取り組むことにより、カバディ競技の盛り上げにつながるだけでなく、本市のPRにもつながると考えるがどうか</p> <p>(2) 本市に「(仮称)愛知・名古屋アジア競技大会東海市組織委員会」を設置し、アジア競技大会のカバディ競技開催に向けて、積極的に活動することにより、カバディ競技の円滑な開催につながるばかりでなく、子どもたちが将来、カバディ競技の選手になることを選択し、本市から世界的に活躍するカバディ選手を輩出することにつながる等、カバディといえば、東海市というレガシーが得られると考えるがどうか</p>	
	<p>2 中国の浙江省杭州市で開催されたアジア競技大会では、eスポーツが初めて正式競技に採用され、愛知・名古屋アジア競技大会においても正式競技となることが決定している。老若男女、また一定の障がいを抱えた方でも、誰でも活躍できる可能性を秘めているeスポーツは、分け隔てない共生社会の実現を目指す、SDGsの視点からも社会的意義が大きいと考えるが、eスポーツに対する本市の考えについて問う</p>	<p>(1) eスポーツについて、社会的意義をどのように捉えているか。また、eスポーツへの取組方針はどのようなか</p> <p>(2) 令和7年度に新しく開館予定の「東海市創造の杜交流館」でeスポーツの大会等が行われることで、多世代交流活動もできる施設として、PR効果があると考え、本市の考えはどのようなか</p>	

<p>4 子育て世代や働き世代の定住促進策について</p>	<p>1 東海市の魅力を、市内はもとより、市内外に住む子育て世代を中心とした、働き世代にPRすることは、本市を居住地として選択してもらうのに、大変有効であると考え。市内の子育て支援施設や公共施設を楽しみながら発掘し、実感してもらうツアー等の観光・広報イベントの開催は、新たな住まいとして東海市を選んでもらう契機になると同時に、市民も広く東海市の魅力と住みやすさを再認識することができ、定住促進につながると思うが、本市の今後の取組の考えについて問う</p>	<p>(1) 子育て支援施設や公共施設を市内外の方へPRする事業について、近隣市町における実施状況及び事業内容はどのようなか (2) 令和5年9月1日号の広報とうかいは、市内子育て世代から大変評判が良かった反面、現在実施されている様々な子育て支援策や市内子育て支援施設について、十分に周知がされていないと感じるが、今後、市内外の子育て世代を中心とした、働き世代に対するプロモーションの必要性をどのように考えているか (3) 本市独自で行っている手厚い子育て支援や医療福祉制度、充実した子育て支援施設や公共施設について、東海市の魅力を紹介するため、新しく本市での居住を考えている市外に居住する方や市民の方に向けて、「東海市の魅力発掘ツアー」等を実施することは、定住促進策として非常に効果的であると思うが、本市の考えはどうか</p>	
<p>5 妊産婦が安心して出産できる支援について</p>	<p>1 令和5年度より、公立西知多総合病院での分娩もようやく開始されたが、まだまだ対象者が限定的となっている。市内に住む妊産婦の方々が、安心して妊娠、出産、子育てができる環境を整備することは、都市宣言で「子育てと結婚を応援するまち東海市」を掲げている本市の大切な役割であると思うが、安心安全な分娩につながるよう妊産婦を対象としたタクシー料金助成事業について、本市の考えを問う</p>	<p>(1) 妊産婦を対象とした医療機関への通院に利用できるタクシー料金助成事業について、近隣市町における実施状況はどのようなか (2) 24時間いつ陣痛がきても安心して出産できるよう、医療機関への通院に利用できるタクシー料金の助成券を配布することは、安心安全な分娩につながる有効な支援策と考えるがどうか</p>	

質 問 者	3 中村義幸議員（新緑水クラブ）		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 降下ばいじん対策の 情報提供の方法について	1 東海市は「鉄とランのまち」として発展してきたが、行政として工場や事業所との公害防止協定の締結及び立ち入り調査の実施や降下ばいじん対策検討会の開催や臨海部企業への降下ばいじん対策の要望を行う等、環境問題に対して様々な取組を行ってきた。しかし、その取組の情報が市民にはなかなか伝わっていないように思われる。現状と今後の情報提供の方法について問う	(1) 降下ばいじんの測定値の客観性及び正確性を確保するためにどのような方法を用いているのか (2) 降下ばいじん等に係る臨海部企業への立ち入り調査はどのように行っているのか (3) 臨海部企業の降下ばいじん削減に対する取組について、市としてどのような対策が効果的と考えているか。また、企業はどのような対策を中心に進めていると把握しているのか (4) 市民への降下ばいじん対策に関する情報提供を今後どのように行っていくのか	
2 職員の能力及び意識の向上について	1 地方公共団体の基本は「住民の福祉の増進を図る」ことであり、市民サービスの場面で直接対応するのは市の職員である。職員がいきいきとやりがいを持って働ける職場にすることで質の高い行政サービスが提供され、住民満足度が上がると考えるが、本市の職員の能力及び意識の向上について問う	(1) 職員の能力や適性に合わせた配置や業務分担を行うことでやりがいやモチベーションの向上につながると考えるが、人事異動についての基準や考え方はどのようなか (2) 職員の成果や努力を適切に評価し感謝や賞賛を伝えることで、自分の仕事に対する自信や満足感を得ることが考えられるが、どのような人事評価を行っているか (3) 職員が自分の将来の目標や夢を持ちそれに向かって成長できるような、キャリアアップを支援するための研修はあるか (4) 職員の意見や要望を定期的にヒアリングする仕組みはあるか (5) 市の総合計画に掲げる目標達成のために、職員が自分の仕事の目的や意義を理解するための取組はどのようなか	

<p>3 行政のDX推進について</p>	<p>1 令和3年4月よりデジタル推進課が発足し、本市の行政のDX推進に向けた取組が始まった。DXとはデジタル・トランスフォーメーションであり、単なるデジタル化だけではなく、デジタル化を契機として変革を行うことであるので、変革のためには従前のプロセスや組織にとらわれずに業務の最適化を行う必要がある。そこで、DX推進についての基本方針及びこれまでの実績と今後の方向性について問う</p>	<p>(1) デジタル技術を活用し、市民サービスの向上と業務の効率化に取り組んできた具体的な内容とその成果はどのようなか (2) 部・課を横断したDX推進組織の設置状況とその取組内容はどのようなか (3) デジタル化するだけでなく、業務自体の改善を進めていくためには、多くの職員が先進的な取組をしている自治体を視察し、実際の現場を知ることが必要であると考えがどうか (4) オンライン申請等の市役所に来なくても行政手続きが行えるサービスを、今後更に拡充していく考えはあるか (5) 電子契約や電子決裁を取り入れる等の行政のDX推進が、今後更に必要となってくると考えるが本市の考えはどのようなか (6) 本市のDX推進について今後の方向性はどのようなか</p>	
<p>4 都市公園のあり方について</p>	<p>1 東海市の都市公園は、市の発展とともに73箇所、125.67haを整備してきたが、社会の変化に伴い、公園に求められる役割も変わってきた。現在、市では、公園長寿命化計画を策定し、老朽化の進む公園施設の更新を進めているが、今後の都市公園の維持管理について問う</p>	<p>(1) 老木化による枝の落下や倒木の危険のある樹木は、どのように対応しているのか (2) 近隣市町の単位面積当たりの都市公園の維持管理費は、把握しているのか。また、本市と比較してどのようなか (3) 都市公園の維持管理費を削減するために、どのようなことに取り組んでいるのか (4) 近年、市民に身近な街区公園の利活用がされていないと思われるが、どのようにして利活用を促進するのか (5) 維持管理費の削減や魅力ある公園作りのために民間活力の導入等の管理運営方針を模索するために、優れた事業提案を受けること等を目的とした、いわゆるサウンディング型市場調査をする必要があると思うがどうか</p>	
	<p>2 大池公園は本市を代表する公園の一つであるが、市内外からの利用客を呼び込むための再整備について問う</p>	<p>(1) 平成17年度に策定した再整備計画はどのような内容か (2) 再整備と合わせて、芝生広場にトイレを設置する等施設の充実を図る考えはあるか</p>	

<p>5 屋外の子どもの遊び場の確保について</p>	<p>1 都市公園以外にも本市には約70箇所の児童遊園・ちびっこ広場があるが、その課題と展望について問う</p>	<p>(1) 児童遊園・ちびっこ広場は、町内会・自治会の管理協力員が管理しているが、高齢化や役員不足により十分な管理ができていないと考えるが、今後の市の考え方を問う (2) 少子化や猛暑等により、屋外の子どもの遊び場の利用が減少しているのではないかと考えるが、児童遊園・ちびっこ広場の課題及び今後の利活用の考え方を問う</p>	
<p>6 不登校児童生徒への支援について</p>	<p>1 全国的に少子化が進む中、児童生徒の健全な発達は社会全体で取り組むべき課題と考えている。本市においても不登校となっている児童生徒が一定数いるものと思うが、行政としての現状の認識と支援等について問う</p>	<p>(1) 不登校児童生徒の人数、傾向及び主たる要因について過去5年間の調査・分析した結果はどのようなか (2) スクールソーシャルワーカーによる支援等の不登校児童生徒への支援施策によって、不登校児童生徒数や学習面等にどのような効果があったと考えているか (3) 不登校児童生徒が社会から孤立しないよう、社会とのつながりをどのように作るのか。また、どのような課題があるのか (4) 不登校児童生徒への支援に関して、今後の対応等についての考えはどのようなか</p>	

質 問 者	4 早 川 康 司 議 員 (新緑水クラブ)		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 持続可能な地域経済の活性化策について	1 本市では、これまでプレミアム商品券や既に普及している二次元バーコード決済によるポイント還元事業等を活用し、コロナ禍で影響を受けた幅広い業種の事業者等に対する支援や、物価高騰等に伴う市民生活への影響を緩和する生活支援等を実施してきた。市内の地域経済活性化策として活用できる持続可能な取組の今後の展望について問う	(1) 令和4年度と令和5年度前半の市内小規模事業者キャッシュレス決済ポイント還元事業の経済効果等の成果はどのようなか (2) 本市の市内小規模事業者キャッシュレス決済ポイント還元事業は、近隣市町で実施されているデジタル商品券、地域デジタル通貨による還元事業と比較してどのようなメリットや課題があるか (3) 物価高や人手不足等により厳しい状況が続く中、地域の実情に応じて機動的かつ効果的に対策を講ずることが求められるが、今後の消費喚起策等の展望はどのようなか	

<p>2 地域公共交通の充実に向けた取組について</p>	<p>1 地域課題のひとつとして挙げられる、買い物等の日常生活の維持に必要な移動サービスの充実に向けて、コミュニティバス等が活用されているが、運転手不足等様々な要因により運行体制の確保に苦慮する自治体が多い。そのような中、高齢者や免許を持たない方々等の外出促進に寄与する、デマンド交通を始めとした新たな移動サービスの検討により、地域の移動需要を活性化させると共に、地域企業とも連携しながら地域の公共交通を継続的に維持し続けていくことが重要である。本市の持続可能な地域公共交通の充実に向けた取組について問う</p>	<p>(1) 本市地域公共交通計画の策定にあたり、地域公共交通会議等ではどのような意見があったのか (2) 本市地域公共交通の課題をどのように捉え、今後どのような取組が必要と考えているのか (3) 地域公共交通を補完する新たな交通システムとして実証実験を行うデマンド交通システム「チョイソコ」の特徴と他の市町村での導入実績はどのようなものであるか (4) デマンド交通システム「チョイソコ」によるメリットと課題、また今後のスケジュールはどのようなか (5) 今後、デマンド交通を始めとした、多様な地域の交通システムの広がりにより、市、交通事業者、地域住民や地域企業が協働し、持続可能な地域の移動サービスの充実が図られることが重要であると考えているが、市としてどのような展開を目指していくのか</p>	
------------------------------	--	---	--

<p>3 地域と市の協働による地域運営について</p>	<p>1 少子高齢化や単身世帯の増加等が進む中でのアフターコロナの現在、地域活動の担い手不足は、地域組織への加入率の低下を招くこととなり、解散、廃止となる組織も増えてきている。全ての市民が等しく住民サービスを受けられるよう、地域コミュニティの果たすべき役割は益々重要であり、地域力強化が求められている。多様な地域課題への対応に向けて、その重要な役割を担うコミュニティの基盤強化とその方向性について問う</p>	<p>(1) 平成29年5月に施行された個人情報保護法の改正に関する町内会・自治会の対応状況はどのようなか (2) 本市としてアフターコロナのコミュニティを始めとする組織や地域活動の現状と課題についてどのように捉えているのか (3) 自治振興費交付金とコミュニティ推進地区活動費交付金のそれぞれの役割と実績はどのようなか。また最少と最多世帯規模、一人当たりの交付金の格差はどのようなか (4) 地域運営において大きな役割が地域コミュニティに期待されている中、コミュニティ活動への人的・物的・経済的支援についてどのように考えているのか (5) スマートフォン等を活用して、回覧板等の地域情報を共有する仕組みを導入し、幅広い世代へ積極的に地域参加を促す取組を考えてはどうか</p>	
-----------------------------	--	--	--

質 問 者	5 江 川 祐 之 議 員 (市友会)		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 都市公園等の樹木の安全対策について	1 近年、市内外の公園や街路樹において、樹木の倒木による事故が多く発生している。高度成長期に植えられた樹木は概ね50年が経過し、老木化が顕著に見えてきた中で、平成29年に国土交通省が、都市公園の樹木の点検、診断に関する指針を示した以降の都市公園等の樹木に対する安全管理の取組について問う	(1) 樹木の健康状態や、安全性の確認を含めた点検方法はどのようなか (2) 過去5年間で、都市公園等における、樹木の倒木、枝の落下等の事故事案は何件あるか (3) 樹木に異常があった場合の対応はどのようなか	
	2 小中学校では、昭和35年頃から教育の一環として学校及びその周辺に草木を植栽し、学校緑化活動に取り組まれている中で、学校施設における、樹木の日常点検及び安全管理について問う	(1) 学校施設における樹木の日常点検及び安全管理はどのようなか (2) 点検の結果、異常を確認した樹木についての対応はどのようなか	
2 大池公園のさくら再生について	1 令和2年度から、大池公園のさくら再生プロジェクトについて市民参加型でワークショップが開催され「大池公園さくら再生ワークショップ基本計画」が策定された。現在、活動を進めている中で、次世代へさくらの花を繋ぐための施策について問う	(1) 公園内に最も多く樹生しているソメイヨシノの樹齢等の特徴はどのようなか (2) 過去に開催されたワークショップの参加者数、世代及び活動内容はどのようなか。 (3) 令和2年度からの活動を踏まえて、生育状況等の効果はどのようなか (4) 桜まつり会場周辺から再生に向けた活動を進めているが、今後の計画はどのようなか (5) さくらを未来へ繋ぐための問題や課題はどのようなか	

<p>3 空き家対策について</p>	<p>1 少子高齢化社会が進む中、核家族化が進んで行き、団塊の世代の相続が進むと空き家が急速に増加することが想定される。空き家となる状況は、所有者の高齢化、相続問題、売却手続きの煩雑化などにより変化すると考えるが、衛生面の問題のみならず、地域防災や外壁材、屋根材の落下等の安全面の問題も懸念されることから、東海市空家等対策計画の現状の取り組み状況について問う</p>	<p>(1) 令和5年現在で把握している、市内の空き家総件数と損傷のある空き家等件数はどのようなか (2) 相続人不存在の空き家はあるか (3) 空き家により周辺環境に影響を及ぼした場合の対応はどのようなものがあるか。また、誰が対応しているのか (4) 計画の中で、管理不全の空き家による、悪影響の拡大防止策として、周辺住民が相談しやすい環境を整備することが重要とあり、必要と考えるがどのようなか</p>	
<p>4 風しんワクチン接種について</p>	<p>1 先日、愛知県内全域にインフルエンザ警報が、令和元年12月以来、4年ぶりに発令された。新型コロナウイルス感染症が落ち着きつつある中で、過去10年では最も早い警報発令となっており細心の注意が必要である。少子高齢化が進む中で感染症対策、特に妊婦及びその家族への対策は重要だと考えるが、本市の風しん抗体価検査の実施状況や風しんワクチンの接種状況等について問う</p>	<p>(1) 妊娠を希望する女性やその夫等を対象に、風しんワクチン等の接種費用を助成しているが、過去3年間の助成状況はどのようなか (2) 定期接種である風しんワクチンの追加的対策の実施状況はどのようなか (3) 感染症対策のために、様々なワクチンを定期接種として実施しているが、その接種率を高めるための取組はどのようなか</p>	

質 問 者	6 工 藤 政 明 議 員 (市友会)		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 交通事故を未然に防止する取組について	<p>1 改善の推移をたどっていた市内で発生した交通人身事故の件数は、令和4年は前年と比べて横ばいの結果が示されている。交通人身事故の発生等について、本市の状況と考えを問う</p> <p>2 交通事故を防止する装置として期待が寄せられているペダル踏み間違い急発進等抑制装置を高齢者が運転する自動車に取り付けた際の設置費を補助する事業について、本市の状況と考えを問う</p>	<p>(1) 令和5年10月までに発生した交通人身事故の件数はどのような状況なのか</p> <p>(2) 市内で発生した交通人身事故の原因をどのように把握しているのか。また、その原因に特徴は見受けられるのか</p> <p>(3) 10年ほど前に比べ、交通人身事故件数を大きく改善することができた要因をどのように考えているのか</p> <p>(4) 春季と秋季の全国活動期間以外に本市独自の活動期間を設けて交通安全を啓発する必要性をどのように考えているのか</p> <p>(1) ペダル踏み間違い急発進等抑制装置にはどのような機能が備わっているのか。また、装備することによりどのような効果が期待できるのか</p> <p>(2) 高齢者安全運転支援装置設置費補助事業とはどのような事業であったのか</p> <p>(3) 高齢者安全運転支援装置設置費補助事業の効果をどのように捉えているのか。また、補助対象を高齢者とした理由はどのようなものなのか</p> <p>(4) 安全運転支援装置の搭載車の普及率を向上させるため、全ての運転者を対象とする安全運転支援装置設置費補助事業を本市独自で取組む必要性をどのように考えているのか</p>	
2 犯罪等を未然に防止する取組について	1 省エネルギー改修工事の一環として進められ、犯罪抑止の効果が期待が寄せられている道路照明灯・防犯灯の全灯LED化について、本市の状況と考えを問う	<p>(1) 全灯LED化の効果は事業計画に沿ったものを得ることができているのか。また、問題点や課題は整理され対応策は検討されているのか</p> <p>(2) 民間駐車場の防犯対策として、照明器具設置及びLED化への補助制度を創設する必要性をどのように考えているのか</p>	

	<p>2 令和元年度から2年間実施した、犯罪抑止力や犯罪捜査で期待が寄せられている防犯カメラの設置事業について、本市の状況と考えを問う</p>	<p>(1) 防犯カメラの設置場所及び設置台数並びに種類はどのような状況なのか。また、事業実施以降で防犯カメラを新たに設置した実績と理由はどのようなものなのか</p> <p>(2) 市全域に防犯カメラを設置したことによる効果をどのように考えているのか</p> <p>(3) 犯罪抑止力だけではなく交通事故の防止及び原因解析に役立つ観点から交通量もしくは交通事故が多い交差点等に防犯カメラを設置する必要性をどのように考えているのか</p>	
	<p>3 特殊詐欺と呼ばれている犯罪が依然として高い水準で発生し、その手口が多様化するとともにその被害の深刻さが増している。特殊詐欺から市民を守る方策等について、本市の状況と考えを問う</p>	<p>(1) 令和3年以降の特殊詐欺の認知件数及び被害者年齢層はどのような状況なのか</p> <p>(2) 高齢者特殊詐欺等被害防止対策機器購入費補助事業の効果をどのように捉えているのか。また、補助対象を高齢者とした理由はどのようなものなのか</p> <p>(3) 犯罪の被害者にならないための被害防止の注意喚起や啓発だけでなく、犯罪に加担しないための犯罪防止の注意喚起や啓発に取り組む必要性をどのように考えているのか</p> <p>(4) 特殊詐欺の根絶に向けた取組として、市の責務や市民等の役割を明文化する等の条例を定める自治体もあるが、条例の制定をはじめとする特殊詐欺から市民を守る強固な方策を推進する必要性をどのように考えているのか</p>	

<p>3 まちの環境美化を推進する取組について</p>	<p>1 まちの環境を美化するとともにそれを維持するためには、家庭から排出されるごみを適正に収集することが重要と考える。町内会・自治会等が設置するごみ集積場所の設置及び管理について、本市の状況と考えを問う</p>	<p>(1) ごみ集積場所の設置数はどのような状況なのか。また、ごみの収集はどのように行われているのか (2) ごみ集積場所の設置及び管理に関する要綱に定める、設置義務や構造等に関する基準を満たすことができていない町内会等や共同住宅型集合建築物を管理する者への助言等はどのように行われているのか (3) ごみ集積場所用散乱防止ネット及びカラス等鳥除けテープの他にどのような鳥獣対策が行われているのか (4) 鳥獣に荒らされる被害が慢性化しているごみ集積場所において、より強固なごみ散乱防止策を講ずる必要性をどのように考えているのか</p>	
<p>4 情報の発信と収集を活性化する取組について</p>	<p>1 デジタル技術を活用した新たな取組等の効果等や画像・動画等の視覚的効果が高い情報を使った市と市民のコミュニケーションの更なる活性化の可能性等について、本市の状況と考えを問う</p>	<p>(1) 令和5年3月から市ホームページのリニューアルを施しているが、リニューアルの目的はどのようなものなのか。また、その効果をどのように捉えているのか (2) 市公式SNSはどのような活用が図られているのか。また、問題点や課題は整理され対応策は検討されているのか (3) 全世帯向けに発行している広報とかいは、令和5年6月1日号からデジタルブックを追加しているが、追加による効果をどのように捉えているのか。また、紙面配布を望まない世帯への対応はどのように行われているのか (4) 道路等の公共の場所や施設の損傷等をスマートフォン等により手軽に投稿できる映像通報システムの導入をどのように考えているのか</p>	

質 問 者	7 蓑手純一議員 (公明党)		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 屋内の子どもの遊び場の設置について	1 地球温暖化の影響が深刻化し、気温の変化や災害の激甚化等を通して多くの人々が危機を実感している。なかでも気温の上昇により、外での水遊びやプール等の遊泳中においても熱中症による事例が近年増加しており、高温になる屋外での子どもの遊び場が危険になってきている。体を動かせるスペースとして、充実した遊具や玩具が整備された屋内の遊び場スポットの設置について問う	(1) 子育て支援センター、児童館における過去3年間の利用状況はどのようなか。また、利用者から遊具等の設備に関する要望をどのように聞いているか (2) 本市においても空きテナントや公共施設の空きスペースを利用して屋内の遊び場スポットを設置する考えはどのようなか	

<p>2 HPVワクチンキャッチアップ接種について</p>	<p>1 本市では令和3年度からHPVワクチンの積極的勧奨が再開され、合わせて積極的勧奨差し控えの影響を受けた世代に対してもキャッチアップ接種が開始された。将来の子宮頸がん罹患を減らすためには、この機会に接種を進める必要があると考える。キャッチアップ接種は令和6年度末まで、3年間の時限措置となっており、期間内に3回接種を完了するためには令和6年9月末までには1回目の接種を開始する必要がある。そこで、令和6年度に期限を迎えるキャッチアップ接種対象者への対応等について問う</p>	<p>(1) 本市のキャッチアップ接種対象者は何人か。また、キャッチアップ接種対象者の接種率の推移はどのようなか (2) 平成7年度生まれから平成10年度生まれの世代が接種率70%以上であったことを考えると、現在の接種率は相当低いと感じられるが、接種率の伸び悩みの原因をどのように分析しているのか (3) キャッチアップ接種の期間内の接種率を少しでも上げるため、対象者にキャッチアップ接種の最終期限をお知らせする個別通知を送付するとともに、あらゆる手段で接種に対する不安を払拭する啓発を行うべきと考えるが、本市の対応はどのようなか</p>	
-------------------------------	--	---	--

<p>3 骨粗しょう症検診の実施等について</p>	<p>1 政府は次期国民健康づくり計画「健康日本21（第三次）」を令和5年5月31日に発表しており、その中で、女性の健康に関する項目を新設し、人生の各段階における骨粗しょう症等の健康課題の解決を図ることが重要だとしている。加齢等により、骨密度が低下すると骨粗しょう症になり、骨折しやすくなることで、要介護状態に陥るリスクも高くなるため、予防や早期発見に有効な骨粗しょう症検診の実施が重要と思うが、本市として骨粗しょう症検診に対する取組について問う</p>	<p>(1) 愛知県内では6割の市が骨粗しょう症検診を行っているが、本市として骨粗しょう症検診の実施を含めた今後の取組はどのようなか</p>	
<p>4 ひきこもり支援の現状について</p>	<p>1 ひきこもり支援センターほっとプラザは、東海市ひきこもり支援事業コンソーシアムと契約をして2年9か月が経過するが、年々増加傾向にあるひきこもり、不登校問題等の課題解決に実績を上げている。本コンソーシアムに対する現状と今後の支援について問う</p>	<p>(1) ほっとプラザはひきこもり対策の実績を出していると考えますが、共同事業体としての本コンソーシアムに対する現状の評価と問題点はどのようなか。また、支援メニューはどのように展開されているか (2) 本市は本コンソーシアムとの契約をどのように捉えているか。また、ひきこもり等対策で実績を上げている本コンソーシアムとの契約を継続するべきと考えるがどうか</p>	

質 問 者	8 井 上 純 一 議 員 (公明党)		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 発達障がいのある児童生徒への支援について	1 近年、本市でも発達障がいのある子どもが増え、現場で保育士や教員等が対応に苦慮していると聞く。発達障がいは、早期に療育や支援を開始することにより、そうしない場合よりはるかにその後の社会生活の困り感が違うと言われている。そのためには、保育士や教員がしっかりと知識と療育的な技術を学ぶとともに、臨床心理士等の専門家や関係機関との連携を深めることが重要と考え、本市の今後の取組について問う	(1) 教員の専門性を高めるため、臨床心理士等の専門家による教員研修を実施してはどうか (2) 保育園や放課後児童クラブ及び民間事業者との連携状況はどのようなようであるか (3) 教員が、療育の専門家との関係を深め、気軽に相談できる環境づくりを進めるべきと考えるがどうか	

<p>2 伴走型相談支援について</p>	<p>1 伴走型相談支援事業がスタートして1年が経過しようとしている。この事業の構想には、フィンランドの「ネウボラ」が背景にある。先行するフィンランドから学ぶ点は、同じ保健師等が一貫して母子のみならず家族の相談支援を担当することである。市内の子育て中のお母さん方からも、面談してもらえの はありがたいが、初対面の保健師等には相談をしづらいとの声を聞くため、本市でもフィンランドの「ネウボラ」を参考にして相談体制を見直すべきと考え、今後の取組について問う</p>	<p>(1) 伴走型相談支援のこれまでの実績及び課題をどのように分析しているのか (2) 妊娠8ヵ月の面談を訪問支援に切り替えるべきと考えるがどうか (3) 伴走型相談支援は、母親と保健師等との信頼関係の構築が不可欠と考えるがどうか (4) 母親を孤立させないために、フィンランドの「ネウボラ」を参考にして、同じ保健師等が一貫して担当できる体制に見直すべきと考えるがどうか</p>	
<p>3 こども誰でも通園制度(仮称)について</p>	<p>1 国は、親の就労要件を問わず、未就園児を定期的に預かる「こども誰でも通園制度(仮称)」について令和6年度より本格実施を目指すと発表した。本市でも企業主導型保育事業を含めた民間の保育資源をフル活用し、国の方針に合わせて実施を検討すべきと考え、今後の取組について問う</p>	<p>(1) 市内の企業主導型保育事業の施設数及び定員はどのようなものであるか (2) 企業主導型保育事業を含めた市内の保育資源をフル活用して「こども誰でも通園制度(仮称)」の令和6年度からの実施を検討すべきと考えるがどうか</p>	

<p>4 給食の地産地消の取組について</p>	<p>1 遠く離れた生産地から届く食材は、輸送や保管に多くのエネルギーが使われ、多くの二酸化炭素を排出する一方、地場産物は地球に優しいと言える。「ゼロカーボンシティ宣言」をした本市として、学校及び保育園給食の食材について地産地消の取組は、地球温暖化対策のみならず、食育、農業支援と「三方よし」の政策と考え、本市の今後の取組について問う</p>	<p>(1) 本市の学校及び保育園給食における地場産物の使用はどのようなものであるか (2) 学校及び保育園側と生産者側の連携を密にして、地産地消の取組を強化すべきと考えるがどうか</p>	
<p>5 地域敬老事業費交付事業について</p>	<p>1 個人情報保護法の改正により、令和5年度から75歳以上の高齢者のいる町内会・自治会等が開催する地域敬老行事を支援する地域敬老事業費交付事業の交付金の支給に際し、市から対象者名簿を提供できなくなった。これにより、「町内会長・自治会長の負担が増えた」、「町内会・自治会未加入者が除外された」等の声が各地域で多く聞かれる。これを契機に地域敬老事業費交付事業を時代の変化に合わせて、抜本的に見直すべきと考え、本市の今後の取組について問う</p>	<p>(1) 個人情報保護法の改正による町内会長・自治会長への負担及び未加入者への対応についてどのように考えたのか。また、町内会・自治会を解散した地域にはどのような対応をしたのか (2) 市からの名簿の提供ができなくなった結果、どのような課題があると認識しているのか (3) 名簿が出せないのであれば、その地域で暮らす高齢者の人数分の交付金をコミュニティに支給し、年間を通じた高齢者支援事業に活用できるようにしてはどうか</p>	

質 問 者	9 加藤典子議員（日本共産党議員団）		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 放課後の児童の生活について	1 小学校での放課後児童クラブは、保護者が就労等により昼間家庭にいない児童の遊びや生活の場として行っている。国の放課後児童クラブの設置基準では児童一人当たり1.65㎡のスペースを確保するとしているが、児童福祉法施設設置最低基準の2歳以上においては1.98㎡以上の部屋と園庭として3.3㎡が必要となっており、国の設置基準では、幼児より身体が大きい小学生に対し、より狭い設置基準を設けているが、心身の健やかな成長のため、放課後における児童の生活の場の在り方について、市の考えを問う	(1) 現在の放課後児童クラブの利用状況はどうか (2) 長期休業時等を除く土曜日の放課後児童クラブの開設や夏期の体育館の使用及び活動場所の広さ等、現状の放課後児童クラブの課題をどのように捉えているか。また、課題解決のために今後実施を検討している取組はどうか (3) 放課後児童クラブで児童に対応する職員体制について、責任を持った対応を行うため、常勤職員とするべきであると考えているかどうか	
	2 民間の学童保育は、児童を預けるところがないと働き続けることができない親たちが自ら保育者と部屋を準備し、立ち上げた歴史がある。民間の学童保育では児童の成長、働く保護者への支援及び地域への働きかけ等、多方面にわたってその役割を担おうと取り組んでいるが、市の支援の在り方について問う	(1) 現在、市内で活動している民間の学童保育について、児童の成長を助ける存在として、どのような意義があると考えているか (2) 学童保育運営上の課題は、施設の老朽化等が挙げられるが、指導員の確保も大きな課題となっているため、各課題の解決に向けて市の支援の在り方をどのように考えているか	

<p>2 市職員の接遇について</p>	<p>1 市職員は、市民サービスを行う主体として、様々な市民ニーズに対して日々業務を行っているところであるが、税の滞納者に対する収納業務も市の役割となっている。税の収納業務の中で、滞納者である市民に対し、市職員は信頼関係を壊すことがないよう適切な対応が求められているところであるが、知多地方税滞納整理機構への事務引き継ぎの前後で、滞納者との間でトラブルとなる事例があったと聞いているため、市職員の接遇向上に向けた取組等について問う</p>	<p>(1) 職員の対応について、接遇の問題に起因する市民からの苦情等の申し立て状況はどのようなか。また、特に税の収納業務を担う職員について、滞納者からの苦情等の申し立て状況はどのようなか (2) 全職員に対する接遇に関する研修をはじめ接遇向上に向けた取組の実施状況はどのようなか。また、税の収納業務を担う職員について、特別に実施している接遇向上に向けた取組等はあるか (3) 税の収納を担当する職員と滞納者との間でのトラブルを未然に防ぐため、市はどのような対応が必要と考えているか</p>	
<p>3 税の収納業務の在り方について</p>	<p>1 現在、本市は税の収納業務について、一定期間を経過した案件を知多地域地方税滞納整理機構に引き継ぎを行っているが、同機構の対応が高圧的であるとの声も聞いており、滞納者であっても市民に対する収納業務として適切ではないと考えるため、知多地域地方税滞納整理機構の今後の在り方について、市の考えを問う</p>	<p>(1) 対応が高圧的である等、課題の多くある知多地域地方税滞納整理機構について、改善を申し入れる考えはあるか。また、改善できない場合、5市5町で構成する知多地域地方税滞納整理機構から脱退する考えはあるか</p>	

<p>4 運動施設における環境整備について</p>	<p>1 現在、市民の健康増進のための運動施設が市内公園等に整備されている。世界的にも夏期の気温上昇が問題となる中、テニスコート等の屋外の運動施設では、プレーの合間に休憩をとるベンチや日よけ等も併せて設置されることが一般的であり、利用者の健康管理を行う上で、非常に重要な設備であると考えため、設置状況及び設置方針等について問う</p>	<p>(1) 市内の屋外の運動施設において、ベンチや日よけ等の設置状況はどのようなか。また、新たに設置の要望があった場合の対応はどのようなか (2) ベンチ、日よけ等の破損等の日常的な点検は実施しているか。また、破損等が発見された場合の修繕についての考えはどのようなか</p>	
---------------------------	---	---	--

質 問 者	10 坂 ゆかり 議 員 (日本共産党議員団)		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 地域公共交通計画について	1 循環バスのルート再編にあたり、市民の意見等を広く取り入れ、より利便性が上がるよう現状の課題を解決していくべきと考えるが、市の考えについて問う	(1) 現行の朝夕ダイヤと昼間ダイヤに分かれた時に、多くの市民から不便になったとの声が聞かれたが、朝夕ダイヤについては、どのような改善策を検討しているのか (2) 特に南ルートの休日ダイヤについては、どのような改善策を検討しているのか (3) 循環バスのルート再編について、どのような改定を計画しているか	
	2 地域公共交通を補完する新たな交通システムの導入が検討されているが、予約に応じて乗降場所や経路を変更可能な交通システムであるデマンド型交通の実証実験について問う	(1) デマンド型交通を利用して市外の医療機関等の停留所を設置する考えはあるか (2) 豊明市の場合、1回の乗車料金を200円と設定しているが、本市の料金設定の想定はどのようなか	
	3 公共交通を維持するために、既存の路線バス等をはじめとした公共交通の利用促進を図る必要があると考えるが、市の方策について問う	(1) 75歳以上は無料となる特別乗車証を、市内で知多バスに乗車した場合も利用できるように市が補助するべきではないか	
2 戦争遺跡について	1 戦後78年が経過し、戦争体験者が減り、戦争の記憶を継承するための戦争遺跡の役割が重要になっている。そこで、名和町の太佐山高射砲陣地跡や、富木島町の知多飛行場滑走路跡地について問う	(1) 太佐山高射砲陣地跡について、調査してどのようなことがわかったか。また、今後どのように保存、活用を考えているか (2) 戦争体験を語れる人が高齢になり継承が難しくなる中、戦争遺跡の語り継ぎのボランティアの育成が必要と考えるがどうか (3) 知多飛行場滑走路跡地については、まだ、わからない部分も多いと聞いているが、市民団体とも協力連携して、市として調査する必要があると考えるがどうか	

3 平和行政について	1 戦後78年が経ち、被爆者の高齢化が進む中、被爆者への援護施策が急がれる。また、2025年は戦後80年に当たることから、戦争を知らない世代へ平和の大切さを語り継ぐための、本市の平和行政について問う	(1) 福祉タクシー料金の助成等の市独自の被爆者援護施策を実施すべきと考えるがどうか (2) 戦後80年の記念事業をどのように考えているか。また、非核平和都市宣言をする考えはあるか (3) 現在、市や個人等で所有している戦争に関する実物資料を、市民が平和の大切さを学ぶ機会とするために、市として展示する考えはあるか	
4 降下ばいじん対策について	1 降下ばいじんが減り、快適な環境で暮らせることは市民の願いである。2023年度は第6次東海市総合計画の後期計画の最終年度にあたり、2024年度を初年度とし、目標年度を2033年度とする第7次東海市総合計画を策定中だが、降下ばいじん対策についての市の方策を問う	(1) 第6次東海市総合計画では、降下ばいじん量のめざそう値を3.3 t/km ² ・月と定め、成果指標を設定し推進してきたが、市はどのような評価をしているか (2) 令和3年度と令和4年度の期間の中に、日本製鉄(株)名古屋製鉄所第3高炉の改修期間が含まれているが、降下ばいじん量にどのような影響があったと考えているか (3) 第6次総合計画を受けて、第7次総合計画での降下ばいじん量に対するめざそう値及び成果指標をどのように設定していくのか	

質 問 者	11 村 瀬 進 治 議 員 (子どもたちに青い空)		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 降下ばいじんについて	1 本市における降下ばいじんは、大幅な減少はあったものの長年にわたり地域住民の暮らしに多大な影響を与えており、より一層の降下ばいじん対策が求められているが、臨海部企業による降下ばいじんが多くを割合を占めると考えられる中で、今後の降下ばいじん調査等について、市の考えを問う	(1) 降下ばいじんの被害に苦しむ地域住民の救済のため、臨海部企業から得た固定資産税を名目上の原資として、市南西部住民の市民税を免除するべきと考えるがいかにか (2) 排出原因と考えられる臨海部企業のばいじん被害の状況確認義務について、市の考えはいかにか (3) 臨海部企業のばいじん排出に対する市民からの苦情について、市の対応方法はいかにか (4) 立地的にも日本製鉄㈱の工場に近い横須賀高等学校及び横須賀小学校では、校舎の屋上に多くのばいじんが堆積していると考えるが、調査を実施する考えはいかにか (5) 本市からの転出理由として悪臭・騒音等が最も大きな割合を占めているが、具体的な悪臭・騒音等の発生原因の分析状況はいかにか (6) 臨海部企業では、風速5メートル以上で、野積みヤードの散水強化を行うこととなっているが、過去1年間での実施状況をどのように把握しているか。また、市による立ち入り調査の実施状況はいかにか	

<p>2 投票所について</p>	<p>1 中ノ池集会所について、これまで場所が狭い、駐車場がない等の理由により投票所として指定してこなかったが、中ノ池地区の住民にとって現在の投票所である横須賀中学校は距離的にも遠く、経路に安全上の課題も見受けられることから、投票所として不適切であると考え、新たに中ノ池集会所を投票所に指定する考え等について問う</p>	<p>(1) これまでに投票環境について、中ノ池地区の住民に対し、アンケート調査を行った実績はいかに。また、今後、アンケート調査を実施する考えはいかに</p> <p>(2) 中ノ池地区の有権者数は約2,300人であるのに対し、木田投票所の有権者数は約500人であり、4倍以上の格差があるにも関わらず、中ノ池地区に投票所を設置していないが、その理由はいかに</p> <p>(3) 投票所の指定は、選挙管理委員会により決定されるとのことだが、各投票所のバランスを考慮し、投票環境に差が生じないように配慮する考えはいかに</p>	
<p>3 高横須賀町城山地区の道路照明について</p>	<p>1 高横須賀町城山地区の市農道について、長年にわたり道路照明を設置するよう求めているが、稲作への影響や通行量の増加によるごみの散乱等、理由を変えて、一向に設置しないが、設置しない理由が二転三転することは、設置しないための口実を作っているように感じられることから、道路照明を設置しない明確な理由等を問う</p>	<p>(1) 高横須賀町城山地区の市農道への道路照明の設置について、設置しない理由が二転三転する理由はいかに。また、設置しない明確な理由はいかに</p> <p>(2) 交通防犯課のカウンターで執務室全体に聞こえるよう道路照明の設置について意見を求めたところ、設置しなくてもよいと意思表示する職員はいなかったが、その事実をどのように評価しているか</p> <p>(3) 当該地区は、消防団第6分団の中心に位置している地区であるものの、横須賀中学校の反対側に位置しており、防犯灯は不要であるとの考えであったが、現在の考えはいかに</p>	
<p>4 職員の体質・体制について</p>	<p>1 市職員は、本来市民の声を聞き、求められる行政サービスを行うことが重要であると考え、現在、一部の職員は市民の声を聞かず、市民目線での職務遂行ができていないように感じるため、職務態度等を新たな視点で評価する制度の導入について問う</p>	<p>(1) 職員間で相互に職務態度等を評価し、採点し合う人事評価制度を導入することで、市民目線を大切にされた職務遂行につながると考えるがいかに</p>	

<p>5 ごみ指定袋制度について</p>	<p>1 ごみ指定袋制度に対する市民の評価について、市が把握している実態と市内各所での聞き取り調査によって得られた実態は大きくかけ離れており、実際にはほとんどの市民がごみ指定袋制度に不満を持っていると考えるが、市の考えについて問う</p>	<p>(1) 市が把握しているごみ指定袋制度に不満を持っている市民の割合はいかに。また、その根拠はいかに (2) ごみ指定袋制度について、街頭で直接市民の声を聞き取る等、直接的な方法で市民からの声を聞いた過去1年間の実績はいかに (3) 現在のごみ指定袋制度について、市民の評価に対する市の考えはいかに</p>	
<p>6 防災スピーカーの活用について</p>	<p>1 現在、地震等の自然災害以外にも、北朝鮮から弾道ミサイル発射等、国の内外を問わず、何が起きてもおかしくない時代を迎えており、防災スピーカーの役割は重要性を増してきているが、防災スピーカー活用の考えについて問う</p>	<p>(1) 防災スピーカーと、避難拠点である中学校6校の校内スピーカーを連動し、広域的に情報発信を行う考えはいかに</p>	